

**製品名: CD22 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab08285**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	90kDa

**抗原情報**

遺伝子名	CD22
別名	CD22; SIGLEC2; B-cell receptor CD22; B-lymphocyte cell adhesion molecule; BL-CAM; Sialic acid-binding Ig-like lectin 2; Siglec-2; T-cell surface antigen Leu-14; CD antigen CD22
遺伝子 ID	933.0
SwissProt ID	P20273
免疫原	抗血清はヒト BL-CAM 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 776-825

**背景**

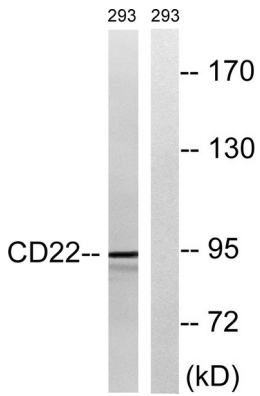
代替製品:追加のアイソフォームが存在するようです。ドメイン:免疫受容体チロシンベースインヒビターモチーフ (ITIM) と呼ばれる細

胞質モチーフの4つのコピーを含みます。このモチーフは細胞応答の調整に関与しています。リン酸化ITIMモチーフは、いくつかのSH2含有ホスファターゼのSH2ドメインに結合できます。機能:B細胞間相互作用を媒介します。リンパ組織におけるB細胞の局在に関与している可能性があります。シアリル化糖タンパク質に結合し、そのうちの1つがCD45です。α-2,6-結合シアリン酸に優先的に結合します。シアリン酸認識部位は、同じ細胞表面上のシアリン酸とのシス相互作用によってマスクされる可能性があります。免疫応答におけるリガンド誘導チロシンリン酸化により、B細胞抗原受容体シグナリングの調節に関与しているようです。Srcファミリーチロシンキナーゼとの相互作用を通じて正の調節に役割を果たし、また、シグナル伝達分子の脱リン酸化を通じてシグナル伝達を阻害するSH2ドメインを介して細胞質ホスファターゼをリクルートすることで、阻害受容体としても機能する可能性がある。、オンライン情報:Siglec-2,オンライン情報:Siglec-2 [3 Fcドメイン],PTM:LYNによってチロシン残基がリン酸化される。、PTM:Tyr-762、Tyr-807、およびTyr-822のリン酸化は、それぞれSYK、GRB2、およびSYKへの結合に関与する。Tyr-842のリン酸化は、SYK、PLCG2、およびPIK3R1/PIK3R2への結合に関与する。、類似性:免疫グロブリンスーパーファミリーに属します。SIGLEC (シアリン酸結合Ig様レクチン)ファミリー。、類似性:Ig様V型(免疫グロブリン様)ドメインを1つ含む。、類似性:Ig様C2型(免疫グロブリン様)ドメインを6つ含む。、サブユニット:主にアイソフォームCD22-betaの単量体。また、アイソフォームCD22-betaのヘテロ二量体およびより短いアイソフォームとしても存在する。リン酸化によりPTPN6/SHP-1、LYN、SYK、PIK3R1/PIK3R2、およびPLCG1と相互作用する。リン酸化によりGRB2、INPP5D、およびSHC1と相互作用する(類似性による)。INPP5D/SHIP、GRB2、およびSHC1と複合体を形成する可能性がある。組織特異性:Bリンパ球。、代替産物:追加のアイソフォームが存在すると思われる。、ドメイン:免疫受容体チロシン阻害因子モチーフ(ITIM)と呼ばれる胞質モチーフの4つのコピーを含む。このモチーフは細胞応答の調整に関与している。リン酸化ITIMモチーフは、いくつかのSH2含有ホスファターゼのSH2ドメインに結合できる。機能:B細胞間相互作用を媒介する。リンパ組織におけるB細胞の局在に関与している可能性がある。シアリル化糖タンパク質に結合し、その1つがCD45である。α-2,6結合シアリン酸に優先的に結合します。シアリン酸認識部位は、同じ細胞表面上のシアリン酸とのシス相互作用によってマスクされる可能性があります。免疫応答においてリガンド誘導性チロシンリン酸化は、B細胞抗原受容体シグナル伝達の調節に関与していると考えられる。Srcファミリーチロシンキナーゼとの相互作用を介して正の調節に関与するほか、シグナル伝達分子の脱リン酸化を介してシグナル伝達を阻害するSH2ドメインを介して細胞質ホスファターゼをリクルートすることで、阻害受容体としても機能する可能性がある。、オンライン情報:Siglec-2,オンライン情報:Siglec-2 [3 Fcドメイン],PTM:LYNによってチロシン残基がリン酸化される。、PTM:Tyr-762、Tyr-807、およびTyr-822のリン酸化は、それぞれSYK、GRB2、およびSYKへの結合に関与する。Tyr-842のリン酸化は、SYK、PLCG2、およびPIK3R1/PIK3R2への結合に関与しています。、類似性:免疫グロブリンスーパーファミリーに属します。SIGLEC (シアリン酸結合Ig様レクチン)ファミリー。、類似性:1つのIg様V型(免疫グロブリン様)ドメインを含みます。、類似性:6つのIg様C2型(免疫グロブリン様)ドメインを含みます。、サブユニット:主にアイソフォームCD22-betaのモノマーです。また、アイソフォームCD22-betaのヘテロダイマーおよびより短いアイソフォームとしても見られます。リン酸化されると、PTPN6/SHP-1、LYN、SYK、PIK3R1/PIK3R2、およびPLCG1と相互作用します。リン酸化されると、GRB2、INPP5D、およびSHC1と相互作用します(類似性による)。INPP5D/SHIP、GRB2、SHC1と複合体を形成する可能性がある。、組織特異性:Bリンパ球。、

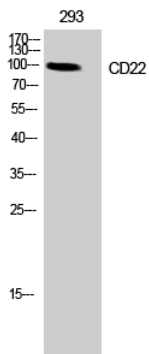
## 研究分野

細胞接着分子(CAM);造血細胞系統;B細胞抗原;

## 画像データ



293 細胞ライセートを  $\text{Ca}^{2+}$  40nM 30°Cで処理し、BL-CAM 抗体を用いてウェスタンブロット解析を行った。右レーンは合成ペプチドでブロッキングした。



CD22 ポリクローナル抗体を用いた 293 細胞のウェスタンブロット解析